



旅の始まりは 雨のひとしずく



ブナと水との、 深いお話

森に雨が降ると、雨粒は大きく広がったブナの枝先の、丸みを帯び少しへこんだ形の葉に落ち、葉の付け根から小枝に伝わり、幹に集まって、滝のような“樹幹流”をつくります。そうして流れ落ちた水は、驚異的な保水力を誇る根元の厚い腐葉土層に吸い込まれます。

雨水を効率的に集め、そしてたっぷり蓄えるシステムを持っているブナの木。

ブナの森が「緑のダム」と呼ばれる所以です。

大山は多様な生態系を残す、面白い山。
「ダイセン」の名がつく生物も数多く、
そんな貴重な動植物との出会いを求めて
多くの人たちが訪れています。



ダイセンゴシキマイマイ



ダイセンキスミレ



ダイセンヒョウタンボク



ダイセンシジミ



ダイセンミツバツツシ



ダイセンクロガタ

- 大山山麓には2,800ヘクタールにも及ぶ西日本最大級のブナの原生林が広がっています。
- 樹齢100年のブナの木についている葉っぱは20万枚から30万枚。それが毎年落ちて腐葉土になり、スポンジ効果によって1時間に約300mmもの雨を吸収します。
- 樹齢200年のブナの木が蓄える水の量は、1本あたり年間8トンといわれています。

神秘的生物

オオサンショウウオ

特別天然記念物に指定され「生きる化石」と呼ばれるオオサンショウウオが生息する、大山山麓の河川。この希少動物もゆたかな大山の清らかな水あってこそ。

撮影／動物写真家 福田幸広氏



なぜ大山には多様な生態系が育まれているのか？

- 大山は今からおよそ100万年前から始まった火山活動によって形成されてきました。大山の噴火や地球の水氷期、気候の温暖化、冷涼化、湿潤化などの様々な気象変動が廻る中で、ブナを含む様々な生き物が栄枯盛衰してきました。現在の大山はその高低差により、日本北部と南部に分布する様々な生き物が生息しています。
- ブナなどの様々な生き物たちの営みと共に土や水が循環しています。大山の地下から湧き出す湧水は、オオサンショウウオなどの川に生息する生き物や、ワカメやサザエなど海の生き物にとっても欠かせない山からの恵みです。